



World Triathlon
Championship Series
YOKOHAMA
2026



監修：世界トライアスロンシリーズ横浜大会組織委員会

せかい

横浜こどもスポーツ新聞

よこはまたいかい

世界トライアスロン横浜大会



@Shugo TAKEMI/Triathlon japan Media

14人の子ども達が
撮った！
聞いた！
書いた！

◇5月16日（土）
◇横浜
山下公園周辺特設コース
◇男女エリート（スイム1.5
キ、バイク40キ、ラン10キ）◇
男女パラ（スイム0.75キ、
バイク20キ、ラン5キ）
横浜の歴代チャンピオンが集
結し、これまでにない激しい
戦いが繰り広げられること
なった今回の大会は、良い天
気ではあったものの暑さで体
力の消耗戦となった。

エリート男子は、マシュー・
ハウザーが横浜2連覇を達成。
エリート女子は、新鋭のティ
ルダ・マンソンがラストの直線
を制し、初の戴冠に輝いた。
パラ男子では、ハマトラス
リートアンバサダーでもある宇
田秀生（39＝NTT東日本・
NTT西日本）が4年ぶりの
表彰台に立った。パラ女子で
は、秦由加子（45＝キャン
マーケティングジャパン・マ
ズフラッグ・ブリヂストン）は、
健闘むなしく3位表彰台に立
つことはできなかった。
今大会では、応募者多数の
中から選ばれた14名のこども
スポーツ記者が白熱したレー
スを追い、パラエリート選手
に記者会見を行った感想を寄
せた。

Project Support:
Canon Inc.
BASEL (NPO 法人 横浜市/バラスポーツ指導者協議会)
ハマトラ未来プロジェクト

レースに出たい！
ぼくは、三年生からトライアスロン
のボランティアをしています。今年
はじめてこどもスポーツ記者に選ば
れて、とてもうれしかったです。
ぼくは、プールではない海を泳ぐの
は大変ではないかと思っていました。
そしたら、記者会見の時、はた選手
がプールとちがって、息つぎの時にき
れいな青空が見えて、気持ちが良い
と言っていて、ぼくも水泳は得意なの



おおつか
大塚 来さん
(小学5年生)



おく
奥 理仁さん
(小学4年生)

目標から逆算して
記者会見で僕は勝つための工夫につ
いて聞きました。
宇田選手は、自分の中でなりたい目
標をきちんと決めて、それから逆算
して一番の近道で少しずつ課題をクリ
アして小さなゴールをいっしょに設けて
勝つように作戦を考えているのが分か
りました。
秦選手の食事は、朝は、まんじゅう
しか食べていないけど、終わった後は



で、海を泳いでみたいと思いました。
自転車も近くで見ましたが、とても
速くてびっくりしました。赤レンガを
バックに写真がとれて、横浜らしくて
お気に入りです。
あと、記者会見での、うだ選手が
とても明るく、せつしてくれて、う
れしかったです。どんな質問も、笑
顔で答えてくれて、トライアスロンの
良さがとても伝わりました。



ホテルで好きな物をいっしょに食べて
いるのがわかりました。朝に、まんじゅ
うしか食べていないのによくプレーで
きるなと思いました。でもその後の
ホテルの食事はいいなと思いました。
あと、気持ちがかかることも言っ
ていました。それは綺麗な水で泳いで
綺麗な景色を見ると気持ちよく泳げ
て良いなと言っていて、僕もそれがも
ちろん良いなと思いました。
レースはみんな必死な顔で僕は「必



トライアスロンには、色々なボラン
ティアがあるので、これから参加し
たいです。そして大人になったら、
トライアスロンに出てみたいです。



死で頑張っているな」と思いました。
あと、普段記者の仕事をしている人
でも入れない場所に入れてもらえてよ
かったです。本格的なカメラで良い写
真が撮れたり選手に質問をしたりす
ることができて凄く楽しかったです。

きくかわ つむぎ
菊川 紡希さん
(小学6年生)



美しく感動

2026年5月16日土曜日、気持ちの良い青空の下、ワールドトライアスロン・パラトライアスロンシリーズ横浜大会が開催されました。
スイムは、一斉に海に飛びこむ選手の、フォームが美しく、バイクは風のような速さで、ランは苦しそうな選手の表情までもとても近くて見る事ができて感動しました。

いちほし
市橋なつなさん
(小学4年生)



二人二輪になつて

これからパラトライアスロンを見て感じたことをいくつかお伝えします。
最初はスイムです。選手は、競技を始める前にハイタッチキッズと、ハイタッチしてから泳ぎます。それを見て、もし、私がトライアスロンをするとしたら、自信と勇気が出る気がします。
次にバイクです。私が初めて見た自転車があります。前に、目が不自由

今回、私は、右足義足の秦由加子選手に取材ができると知ってとてもドキドキ、わくわくしました。なぜなら学校の道徳の教科書に、載っていた方だったからです。記者会見での秦さんは、2時間半前に3種目を行っていた選手とは思えないくらい爽やかで穏やかな笑顔でした。「体は絶対疲れているのにプロってすごい！」と思いました。今大会、秦さんは、4位という結果でしたが、「また表彰台に登れるように来年の横浜大会をがんばり、その先のロスパラで表彰台に登れるようにする。」と言っていました。秦さんは、教科書に書かれていた通り、くじけずに努力をされていて、夢に向かって突き進んでいる素敵なお方でした。私もぜひ、ロスパラの表彰台に元氣な笑顔で立つ秦さんがみたいです。応援しています！



な方をサポートする人、後ろに目が不自由な方が乗る自転車です。二人で息を合わせる姿は、二人三脚ならぬ二人二輪になつていて、「凄いな」と思いました。ちなみに選手がハンドルの上の囲いに、ひじを合わせてのせるのは、空気抵抗を減らすため、はた選手がおっしゃっていました。最後にランです。ランは、ほかの競技よりも近くで見られるので、走っている時の選手の顔がよく分かつて、



ゴールを目指すカッコよさが伝わってきました。たくさん写真を撮りました。キャノンのカメラもすごい画質が良くて、動いている選手もきれいに追いかけるながら、撮ることが出来ました。



おおにし けいこ
大西 慶悟さん
(小学6年生)



驚いてばかり

ワールドトライスロン・パラトライアスロン横浜大会が開催されました。僕は、記者として間近で競技の撮影と2人の選手を取材しました。
トライアスロンは、スイム・バイク・ランの三つの競技を連続して行う競技です。その中で一番驚いたのは、バイクでした。バイクはとても速くて、撮影が大変でした。しかも、泳いだ後なのに、その速さを維持し続けな

おおわだ みき
大和田 洋希さん
(小学5年生)



息がすぐ切った

レース中のトライアスロン選手たちは息が切がすこかったです！
最初の競技であるスイムは、自分の泳ぎやすい泳ぎをしていました。ランやバイクと違い、あまり差がついていなくて、接戦でした。
次の競技であるバイクは、一人一人の選手が目には追えないくらいとても速いスピードで走っていました。



そのため、連写で撮影していないとなかなかうまく撮影できませんでした。選手が来たタイミングでシャッターを切っても通り過ぎた写真しか撮れませんでした。とてもすこかったです。最後の競技であるランは5kmのコースを最後まで諦めずに走っている所に感動しました。
私はピアノを3歳の時から行っていますが、ピアノのコンクールとトライアスロンの試合は同じようなものだと思います。記者会見で当日の心や



がら走るスタミナに驚きました。また、パラでは障がい者の特性によって、形や乗り方も変わるのに、同じような速さが出せるなんてと驚いてばかりでした。
取材では、PTS2で四位の秦選手とPTS4で三位の宇田選手にインタビューをしました。今日の大会について、百点満点中何点が質問すると、秦選手は「七十点」、宇田選手は「九十点」と言っていました。けど、僕



体の調子を良くするために本番に向けてトレーニングを毎日欠かさず行っていると聞きました。ピアノのコンクールに向けて毎日練習している所が同じだと思いました。私はこれからもピアノの練習を毎日欠かさず、選手達のように頑張ろうと思いました。



には、世界で三位や四位でも十分すごいのに満点じゃないなんて、とその世界のきびしさを感じました。
僕は、僕たちのインタビューに笑顔で答えてくれた2人を応援したくなりました。目標にしている2028年のロサンゼルス大会に出場して、メダルを取ってほしいと思いました。

伊藤 詩越 さん

(小学5年生)



挑戦し続ける

トライアスロン横浜大会を見て、私が一番に残ったのは、選手たちが乗っていたバイクです。

理由は、サドルがとても高かったからです。いつも私たちが乗っている自転車とは全く違い、もし自分が乗ったら不安定になって転んでしまいそうだと思います。

しかし、選手たちは高いサドルの自転車を軽々と乗りこなし、速いスピー

ドで走っていました。見ていただけでも怖そうなのに、平気な表情で走っている姿を見て、「本当に勇気があるな」と感動しました。

特に印象に残ったのは、義足をつけた選手も参加していたことです。バランスを取るだけでも難しそうなのに、ほかの選手たちと同じように力強く走っていて驚きました。私は、たくさん練習を重ね、諦めずに挑戦してきたのだらうと思います。



「この大会を見て、「難しいことでも挑戦し続けることが大切だ」ということを学びました。どんな状況でも最後まで全力で競技を続ける選手たちは、とてもすごいと思いました。」



高田 健正 さん

(小学5年生)



行きたくなかった

ある日、お父さんが「子ども記者に当選したよ。」と言った。ぼくは、面倒くさそうだったから行きたくなかった。それでも動画を観て準備した。

むかえた当日、最初はパラランナーのランをとった。この時カメラが少し楽しいと感じた。次はゴールシーンをとった。パラランナーは、かなりつかれているけど一生けん命ゴールをめざしていた。その後も選手をとっていく

うちにカメラで選手を追いかけているのが楽しくなっていた。最後は、記者会見で、はた選手とうだ選手にインタビューをした。ぼくの「日本人選手と外国人選手の体かくなどの違いによっての有利不利はありますか。」という質問に対して「体かく差はありますがその差をトレーニングによってうめていくのがみりよくてきです。」と答えてくれた。しっかり答えてくれ



た事がうれしかった。「一日をとおして、パラ選手たちはぼくたちの何十倍も努力をして競技にのぞんでいると感じた。ぼくも負けないようにがんばろうと思うようになった。子ども記者に参加できて本当に良かった。」



佐野 美怜 さん

(小学4年生)



相手を思いやる

わたしが今回インタビューをして、トライアスロンの自転車の時、ぬかす時は右からぬくというきまりがあることを知りました。

わたしはだまって右からぬかすと思ったのですが、選手たちは「もうちょっと左よってー」「ぬくよー。」など声をかけてからぬかすそうです。わたしは、それを聞いてびっくりしました。ふつう、ライバルどうしなん

だし、みんな自分が勝ちたいと思うはずですが、

ですが、このように選手どうしで声をかけあい、ふつうでもむずかしい「相手を思いやる気持ち」を、こんなきついレースの中で使っているのを知り、すごいなあと思いました。

あと、はたゆかこ選手も、うだひでき選手も、「みんなおうえんありがとうー」「みんなのおうえんでがんばれました。」と何回も言っていました。



わたしも、うだひできせんしゅや、はたゆかこせんしゅのように、スポーツをとくいになりたいな、と思います。

あと、二人のように相手を思いやる人になりたいです。



鈴木 和佳 さん

(小学5年生)



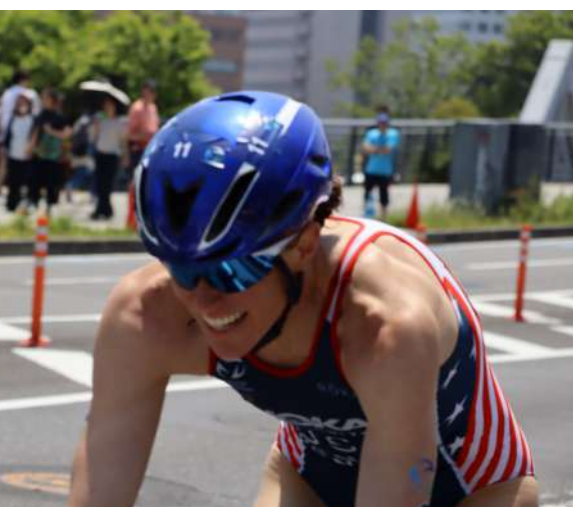
選手のスマイルが

私は今、横浜トライアスロン・パラトライアスロン大会にきています。今日は、様々な国から優勝したことがある選手が来てくれています。

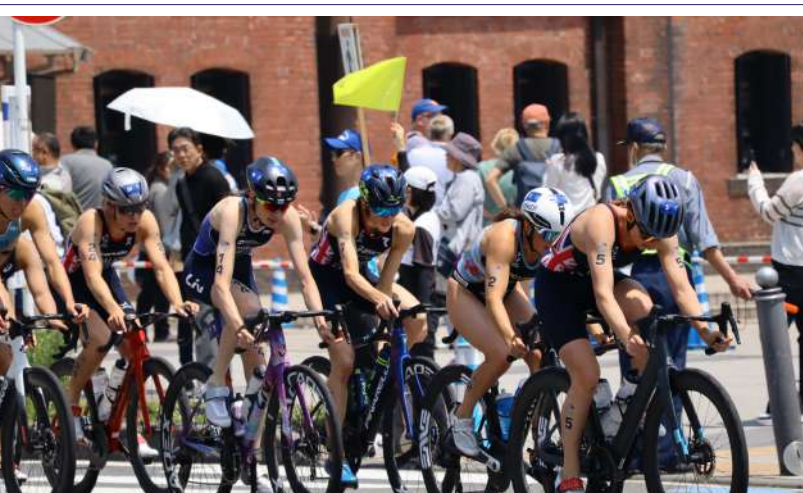
選手が目の前を走って来ると、おうえんや、歓声などがあがっています。いつもの山下公園全体が、選手たちが主役の物語のステージのようでした。いつもとは違う山下公園の景色がみられて、素晴らしい光景です。

トライアスロンの自転車は、想像を超える速さでした。どれぐらいかというと、レースカーが通り過ぎたぐらいのはやさでした。選手たちがすごい速さで駆け抜けて来たので、風がきて涼しかったです。

暑さを忘れるほど私は写真を撮ることに、夢中になりました。私は、写真の中でも撮ることが難しい、選手の表情が撮りたくて、頑張っていたら、



偶然アメリカ選手のスマイルがとれたんです。ぜひあなたもトライアスロンにきて、カメラをもってきて選手の表情撮りにチャレンジしてみたらどうでしょうか。



藤巻 美優 さん

(小学5年生)



なんでもやってみるの

「ゆかこ選手がんばれー」と、みんながバールをならしたり、大きな声で、全力で、応援していました。トライアスロンは、スイム、バイク、ランのタイムで競います。パラトライアスロンは、それを障がいのある人がやるので、うで一本の力で泳いだり、片方の足だけでバイクをこいだり、ぎ足をつけて走ったりします。私も泳いだり、自転車をこいだり、

酒井 桜子 さん

(小学6年生)



原色が目標

宇田選手と秦選手に原点と目標について伺った。秦選手はインターネットに出会ったアメリカのトライアスロン選手に憧れ、「実際に会ってお礼を伝えたい」と話してくれた。その選手なくして今の秦選手はいないと思うと、人との出会いの力を感じた。宇田選手は、二つ年上のお兄さんが一生懸命サッカーに打ち込む姿に影響を受けたという。身近な存在が人生を

走ったりすることはできるけど、うで一本で泳ぐことを考えると、レースに出ている人は、たくさんのチャレンジを重ねてきたんだなと思いました。レース終了後、はた選手に取材することができました。「練習がつらいときはどうしているんですか?」と聞いたところ、「自分になんでやっているの、と聞きます。そうしたら、自分がやりたいからでしょ、と返ってきて、だから、練習がつらいからやらない、



じゃなくて、つらいからやる、にもなれる。」とおっしゃっていました。私も、勉強などがつらいときには、自分に「なんでやっているの?」と聞いてみようかと思いました。



動かすこともあるのだと気がつくことができた。目標についても聞いた。宇田選手は「なりたい自分」を描き、毎日少しずつ積み上げること、勝利に近づいていくと語った。今の目標は2028年パリオリンピックに出場し、そこで輝くことだという。毎日の積

み重ねこそが夢への道なのだ改めて実感した。二人の選手のオリンピック出場を心から願うとともに応援したいと思う。パラリンピックの選手は遠くの存在だと思っていたが、今回の経験を通して意外と身近にいて、私たちと変わりの無い生活をしていることを知った。



須永 晃生 さん

(小学5年生)



泳いでいる時

みなさんはトライアスロンを知っていますか。スイム・バイク・ランを続けて行うスポーツです。合計で51.5kmもあり、とてもきつけれど、おもしろいスポーツだと思います。でも、選手たちは笑顔でゴールしていて、おどろきました。パラトライアスロンでは、義足やバイクが工夫されていて、思ったより速くて感動しました。

安藤 絵麻 さん

(小学5年生)



想像より速く

5月16日に横浜の山下公園でトライアスロンの世界大会が開催されました。会場は選手たちを応援する声にあふれて、にぎやかに感じました。まずパラの部を観戦しました。私たちのおうえんの声にこたえて手をふってくれる選手もいて、うれしかったです。次にスイムの飛び込みを見ました。もし、私が海に飛びこむとなれば、こわさでいっぱいになってしまっか

ぼくは、選手たちが苦しくても笑顔でゴールしている姿がとてもかっこいいと思いました。ゴールエリアでは、応援している人々とハイタッチをしていて、たくさんの人に支えられていることも分かりました。



ら、選手たちは勇気があると感じました。さらに赤レンガ倉庫の前でバイク競技を見た時、選手たちはジェットコースターのようでした。目の前を通ると風を感じました。速いスピードが出ると知っていましたが、想像よりも速くおどろきました。記者会見の時一番印象に残ったのは宇田選手が横浜を走るのが10年目と言っていたことです。私は今10才なので、すごく長い間続いているのだと感じました。



ことしか考えたことがなかったのですが、その話がとても心に残りました。宇田選手は東京パラリンピックで銀メダルを獲得し、次のロサンゼルス大会でもメダルを目指しているそうです。ぜひがんばってほしいです。



おもしろいと感じたのは「練習がつらいときどうするか」という質問に対してのはた選手の回答です。「なんでトライアスロンをやっているのか自分に聞く」と言っていて、つらい時こそ自分を見つめ直しているのがかっこいいと思いました。

